

## パリ五輪を契機に停戦実現を 岸田首相は世界平和推進のリーダーたれ

パリ五輪の開催まであと2カ月を切りました。

近代五輪の祖であるピエール・ド・クーベルタン男爵の提唱した「オリンピック、には「スポーツを通して心身を向上させ、さらには文化・国籍など様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって理解し合うことで、平和でよりよい世界の実現に貢献する」とありますが、エマニュエル・マクロン大統領は、五輪開催中のテロ対策として最大4万5000人のフランス警察と憲兵隊をつぎ込み、さらに軍兵士1万8000人の動員も予定していると伝えられています。

いまこそ、戦乱に苦しむ人々が存在するこの世界の現実を直視しなければなりません。

オリンピック開催国の大統領として、マクロン氏が先頭に立ち、せめて五輪開催中は、2年以上にも及ぶロシア・ウクライナ戦争、イスラエル・ハマスの戦闘など、戦禍に苦しむ人々のために和平（停戦）を実現できるような努力をすべきではないでしょうか。

さらに、間もなく世界最多の人口を持つ国となるとされる次世代の大国インドには、ロシアのプーチン大統領と経済やエネルギーなど多くの面で繋がりの深いナレンドラ・モディ首相が居ます。

6月に3期目を迎えるモディ首相ですが、歴史的に見れば、インドにはマハトマ・ガンディー氏、そして初代首相のジャワハルラール・ネルー氏など、世界に向けて平和を訴え続けた先人が居ます。

せめて五輪開催期間中だけでも停戦が実現するよう、マクロン氏と力を合わせて尽力していただければと思います。

5月にはイタリアでサミットが開催されますが、英国、豪州、日本など参加各国は、おそらく米国との兼ね合いから平和に向けての身動きが取れないのが現状です。

平和に向けての提言は、本来どこの国が声を上げて良いはずですが。

この機会に岸田首相も勇気をもって声を上げ、今こそ世界に誇る安心・安全・安泰を維持し続けてきた日本を訴えるべきではないでしょうか。

3月にはコロナ禍前を凌ぐ観光客が世界中から日本を訪れました。平和で安心で安全で、そして「おいしい」日本だからこそ、その大切さを世界に訴えることができるはずですが。

岸田首相には、サミットにおいて世界の安全保障とともに、日本が尊い平和を維持していることを伝え、世界にアピールすることで、世界の平和を推進するリーダーとしてその存在感を示すことを期待しています。

本誌主幹

大中昔一